

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		2年	後期	火曜日・3時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		必修 (教職課程必修 (栄養士養成課程・栄養教諭))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
教育原理、教育方法論等				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職実践演習等				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤原保利	本館2階	火から金曜日の9時から16時 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要 教育課程の基本的な理念から具体的な指導計画の作成、及びそれに運動する法的、行政的理解を踏まえて、教育課程の組織及び編成に関する知識・技術の習得と活用を目指す。				
授業の到達目標 ○教育課程編成に関する知識・技術を習得し、それを活用することができるようにする。○教育課程の経営と評価に関する知識・技術の習得を図り、欧米の教育課程を比較、参考にして教育課程の望ましい在り方を考えることができるようにする。平成20年度改定の小・中学校の学習指導要領の改訂点、課題を説明することができるようにする。				
授業の方法 基本的に板書を中心とした講義形式で行う。単元終了時に小テストを実施。学期末にレポート提出を求める。「調べる学習・考える学習」を重視した授業の展開を図る。				
学習の成果 ○カリキュラムの意味・意義を理解し、その構造並びに類型の違いを正しく説明することができる。○小・中学校の学習指導要領について、平成10年度の指導要領との違い、改訂点を正しく認識し、実践に移すことができる。○欧米の教育課程経営と評価と比較し、我が国の教育課程の特色ないしは問題点を分析することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス、授業の概要、進め方について説明 レポートの課題及び提出期限について説明			
第2回目	教育課程の意味 カリキュラムの構造と類型 教科カリキュラム 学問中心カリキュラム			
第3回目	経験カリキュラム 社会中心カリキュラム 人間中心カリキュラム			
第4回目	教育課程編成の基準 スコープとシーケンス <小テスト>			
第5回目	教育内容選択の基準 (学問、油溶性、社会的課題、興味・関心) 教育内容配列の基準			
第6回目	教育課程の構造 小学校・中学校学習指導要領における基本構造			

第7回目	教育課程の法と行政 教育課程編成に関する法体系 教育課程行政 <小テスト>		
第8回目	教科書の検定・採択・使用 学校における教育課程の管理・運営		
第9回目	教育課程の経営と評価 教育課程経営から「カリキュラム・マネジメント」へ 学校評価ガイドライン		
第10回目	学校評価の事例と課題 教育改革の動向と教育課程経営 <小テスト>		
第11回目	欧米における教育課程の系譜 現代の学校教育と教育課程 新教育と現代の教育課程		
第12回目	現代日本における教育課程の変遷 試案としての学習指導要領と経験主義 戦後新教育の教育課程 <小テスト>		
第13回目	新教育批判と系統学習論 民間側と文部省の2つの「現代化」 大綱化・弾力化・「ゆとり」へ 「ゆとり」教育の見直し		
第14回目	教育課程をめぐる諸問題 総合的な学習と教育課程 小学校英語と教育課程 学校種接続問題と教育課程		
第15回目	まとめと試験		
成績評価の方法と基準			
評価の領域		割合	評価の基準
授業参加態度		10%	以下の事柄で評価する。授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場面で自分意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明する。)
レポート		20%	詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細はガイダンス時に説明する)
調査報告書			
小テスト		20%	単元終了時に小テストを4回実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に理解されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
中間・学期末試験		50%	論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書に書かれている範囲を超えて、自分の考え方が示されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
発表内容 (態度含む)			
その他			
教科書と参考図書			
参考図書：「教育原理」 教師養成研究会編 学芸図書 参考図書：「教育課程」山崎準二編 学文社			
履修上の心得・ルール			
意欲的、積極的に授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等持込禁止。			

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育課程概説 An Introduction to Curriculum		2年	後期	火曜日・1時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (教職課程必修 (保育士養成課程・幼稚園教諭二種))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤原保利	本館2階	火・水・木・金の9時から 16時(授業時間は除く)		授業中に指示します
授業の概要				
保育の基本と計画、保育における計画の変遷、教育課程、保育課程の編成、教育課程・保育課程・指導計画の実施と指導、保育における評価などについて講義し、幼児の「生きる力」を育むカリキュラムの方向性を考える。				
授業の到達目標				
○教育課程、保育課程、指導計画の意義、編成、作成の手順を理解し、実際に立案することができるようにする。○戦前並びに戦後の保育計画の変遷について理解し、新たな保育計画立案に生かすことができるようにする。○保育実践の評価の意義を正しくとらえて、明日への保育につなげることができるようにする。				
授業の方法				
基本的に板書を中心とした講義形式で行う。単元終了時に小テストを行う。レポートの提出を求める。「調べる・考える学習」の展開を図る。グループ・ディスカッションを導入し、グループごとに発表を求める。				
学習の成果				
○教育課程、保育課程、指導計画の意義を理解し、実践に活用することができる。○戦前並びに戦後の保育計画の変遷について正確な知識をもって、今日の保育を考える視点を持つことができる。○保育実践の評価の意義、評価の方法を正しくとらえて、明日への保育の充実につなげることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の概要と進め方の説明 レポートのテーマと提出期限等について説明			
第2回目	保育の基本と計画 保育における計画の必要性 保育計画立案の基本 計画の実施、反省・計画、改善			
第3回目	NAEYCの基本見解 DAP(発達にふさわしい実践)			
第4回目	NAEYCの基本見解の理論的根拠 NAEYCの子どもへの約束			
第5回目	発達にふさわしい実践の基礎となる子どもの発達と学びの原理—①			
第6回目	発達にふさわしい実践の基礎となる子どもの発達と学びの原理—②			

第7回目	発達にふさわしい実践を作るためのガイドライン	
第8回目	発達にふさわしいカリキュラムづくり	家族との相互関係
第9回目	発達にふさわしい実践と教師の役割	
第10回目	乳幼児のための発達にふさわしい実践 <小テスト>	
第11回目	教育課程と保育課程 指導計画と指導計画作成の留意点	
第12回目	短期の指導計画作成の実際 短期の指導計画の役割 週、日案の内容 幼児理解の方法	
第13回目	具体的なねらい、内容のとらえ方 環境構成と活動との関連 週、日案の立て方例 <小テスト>	
第14回目	保育における評価 保育実践と評価 保育における評価の意義 「一日の生活」の流れに対する評価 保育の充実と反省・評価	
第15回目	まとめと試験	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	10%	以下の事柄で評価する。授業で使われる教材を準備して臨んでいる。ディスカッションの場で自分意見を述べる。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問する等々。(詳細はガイダンス時に説明する。)
レポート	20%	詳細に課題を探求し、内容構成もしっかりしており、課題の要件を十分に満たしている。(詳細はガイダンス時に説明する)
調査報告書		
小テスト	20%	単元終了時に小テストを4回実施する。授業や教科書に書かれている内容が十分に理解されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
中間・学期末試験	50%	論述式である。設問に対する要求を満たし内容構成もきちんとしており、更に、授業内容及び教科書に書かれている範囲を超えて、自分の考え方も示されている。(詳細はガイダンス時に説明する)
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
使用テキスト:「保育原理」待井和江編 ミネルバ書房 参考図書:「教育課程・保育計画論」高杉子他編著		
履修上の心得・ルール		
意欲的、積極的に授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等持込禁止。		